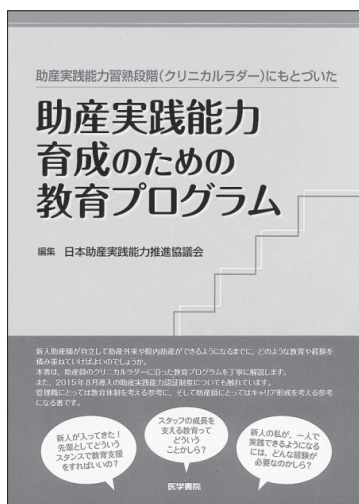


この本、
いかがですか？

日本助産実践能力推進協議会 編集
本体 2700 円＋税
B5 判／医学書院／2015 年

評者

遠藤俊子 京都橋大学看護学部看護学科教授

新人助産師が一人前に成長するまでの育成過程がわかる

2015 年 8 月、日本助産評価機構による助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)レベルⅢ認証の申請受付が開始されます。この制度が誕生した背景には、2005 年以降、助産師が主体的にお産を支える院内助産システムが提起され、推進されていくプロセスのなかで、助産師のケアの質の担保が重要になったことがあります。

質が保証されていることを認証する意義は、利用者である妊産婦とその家族、協働する産科医師をはじめとする関係者への助産ケア能力の保証・説明責任を果たすこと、そして助産師自身の助産実践能力の獲得とその成果の自覚や自信につなげることにあります。今回、レベルⅢに認証された助産師(アドバンス助産師)は「自律して助産ケアを提供できる助産師」として公表できることになります。また、この認証は 5 年ごとの更新制であ

るため、助産師は実践や研修・研究活動を通じて自己の知識や技術の維持・向上を図り、その成果が妊産婦や子どもとその家族の健康に寄与することになります。

本書は、そのための道標を創る参考書となるでしょう。助産師免許を取ったその日から、経験を積むにしたがって、新人、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと期待される助産実践能力のレベルがあります。レベルⅡまでは、勤務する病医院の実践現場で確認、評価されます。レベルⅢになると、今回創設された全国共通の認証制度を活用し、個人認証を受ける仕組みです。このレベルⅢ認証までの実践能力獲得には、病医院における継続的な教育支援こそが重要であることを本書は示し、具体的な教育プログラムを提示しています。

助産師は社会から何を期待されているのか、国内外の状況を踏まえた助産師の必須能力(コア・コンピテンシー)を明示し、レベル新人に行なう教育、ローリスク妊産婦・ハイリスク妊産婦のケア能力を高める教育の計画とともに、専門的自律能力育成のための教育プログラムの方法と内容、評価までもが示されています。

各施設における助産師の教育計画は、看護部で看護職員として共通に企画されるものと、助産師の専門的知識・技術など病棟に任されているものがあるでしょう。それゆえに、本書は病医院の教育企画者、つまり看護部・病棟には最低 1 冊は必要です。加えてレベルⅢの個人認証に向けての申請条件や前提の研修などが記載されているため、助産師個々人がもっていてもよいほどであり、活用が大いに期待できます。

就業している助産師のほとんどが加入している専門職能団体の総意で行なわれる、この新しい認証制度が、助産師のケアの質保証に貢献することを願うとともに、助産師の今後への意気込みに誇りをもてる 1 冊でもあります。

①